

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームよろこびの家(栄)4階	評価実施年月日	H19年 6月25日
評価実施構成員氏名	野坂 太田 安 内田 金田 内山 中手 本間 山崎		
記録者氏名	太田	記録年月日	H19年 6月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	新設当初より理念はあったのだが、長文であり、また職員や利用者様の意見を取り入れていない事から、昨年、全職員や利用者様にアンケートを行い、皆の意見、希望を取り入れた、よるこびの家独自の理念(5ヶ条)を再構築し日々、取り組んでいる。		毎年、職員や入居者様にアンケートを行い、新鮮な理念を作成し取り組んでいきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	当ホームの理念では、自由やプライドを守る事や、ゆとりを持つ事等があり、現場ではトイレや、食事等も、常に急がせず利用者様のペースで行動して頂いたり、趣味や日課にも制限が無い為、裁縫やテレビを見たり自由に過ごして頂いている。またトイレのお誘い等も周りに聞こえない程度の声掛けを行い自尊心を傷つけない様に配慮している。この他にも、理念には、おもいを大切にすることや、共に生きる事があり、職員や家族、物に対するおもいを否定する事をせず、家族同様に接している。		全職員が理念を把握した上でのケア行って頂く為、管理者を中心に口頭では無く、実際に現場に入り職員の手本となる様に指導していきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	当ホームの理念を書いた紙を廊下・玄関等の見やすい所に貼っている。また運営推進会議でも理念をテーマとして地域の人や御家族に、説明を行っている。		運営推進会議では説明を行っているも、現状、御家族への理念の浸透は十分では無く、今後、理念を実践したケアの説明を行う必要がある。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出等には挨拶を行う程度であり、気軽な関係とは現状、言い難く、隣近所との日常的な付き合いは見られない。		催し物等の際には、近所の方へ参加を促し、交流を図れる場面を作る事が必要である。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	当ホームは旭町会や栄町会に所属しており、餅つきや夏のお祭り際には参加を集い、また町内会の清掃活動やお祭りには積極的に参加している。その他には市内の小学校や高校から吹奏楽の演奏のお誘いや小学校から運動会のお誘い等があり利用者様と共に参加し交流を広げている。		地域の人達や地域活動に参加し、今後も気軽に、お互いの催し物等で参加し合える環境を継続したい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	春や秋に行われる町内会のゴミ拾い等に利用者様と共に参加し地域への貢献を行っている。		町内会が行っている活動に参加し地域への貢献を行っているが、今後は当ホームが主催となって地域への貢献に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>自己評価や外部評価で、あがった改善点は定期的な報告や会議を行う事により、ホーム全体で考え極力、早く改善に向けた案等を考えている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>現状、運営推進会議に参加される御家族は少数であり、御家族の遠慮があると思われる為、当ホーム内でアンケートを実施したり、運営推進会議の開催時間の見直しを行っている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後は運営推進会議以外の場でも市町村との連携を密にしサービス向上を図って行きたい。その為、会議以外での取り組みを考える必要がある。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今後、必要とされる利用者様が出た場合は、関係者との話し合いを行う必要がある。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後は介護新聞等も活用し更に虐待への意識を高めると共に虐待への勉強を行い高い知識を得た上で、もう一度、自分達の介護を見つめ直したい。また今後も新入職員には虐待の感想文を書いて頂き虐待への意識を高めて行きたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居時には計画作成担当者より十分に説明を行い理解・納得を得ている。また疑問点や不安等には、いつでも対応しており、管理者や計画作成担当者を中心に納得の行く返答をしている。</p> <p>管理者や計画作成担当者は契約や解約の規律を随時、確認し、いかなる時も速やかに御家族の不安・疑問を改善できる様、努める必要がある。また日頃の付き合いも密にし現在話しやすい環境を作る事も大切である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員や管理者を中心に生活している中で不満、苦情を聞き、事の次第については早急会議を行い対応している。現在までに施設の環境等についての苦情は無く、個々の意見や、希望について職員や管理者が中心となり対応している。		今後も日々の暮らしの中で、各利用者様の意見・不満・希望等を聞きサービスの質の向上や運営方針の見直しを会社内のインターネットを活用し全グループホームの職員や管理者へ情報の共有を継続して行って行きたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	職員の異動については面会者にお伝えしている。利用者様の暮らしぶりや催し物、または運営方針等は運営推進会議にて定期的に報告しており、各利用者様の健康状態は家族の面会時や来られない方には最低、月一回は電話連絡を行っている。また金銭管理も同様に、自分で管理出来ない方の、お金の支出については、レシートや領収書を保存し面会時や、請求書に同封し、報告している。		仕事等の都合上、どうしても当ホームへ来られない方への連絡を密に行い、安心して頂く様、配慮する必要がある。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情には随時、管理者や職員を中心に受け付けており、また運営推進会議では、必ず御家族からの苦情、不安、疑問点を聞き、対応策を話し合い改善に努めている。また年一回アンケートを実施しており、居室の清掃についてや、馴染みの職員に異動等の意見が寄せられており、改善に向け努めている。		随時、意見や希望・不満等を聞いているも、口頭では話ずらい内容もあると思われる為、年に数回アンケートを行い、随時、当ホームの改善点を明確にする必要がある。また苦情処理簿を活用し同じ苦情が出ない様、書類に記入し他のグループホームへの情報の共有を図っている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議において随時、職員の意見・提案を聞いているが、現状では、特に運営に関する職員の意見は上がっていない。		スタッフ会議や業務中に管理者から職員に意見を求めているも職員は運営に関する知識が若干乏しく、今後、運営するに当たっての知識を学ぶ事が必要である。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	催し物等では職員の人員数を手厚くしており、また利用者様のご要望や状況の変化においては、その都度、勤務時間を変更できる体制を確保している。		現在は行っていないが、今後は夜間の入浴や、夜間の外出に対応出来る様に、勤務時間の調整を行いたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力、過度な異動は行っていない。離職等による職員の異動も必要最低限に抑え、馴染みの職員が利用者様へ支援できる様、配慮している。また新入職員へは、利用者様のコミュニケーションを作る事を第一とし、最初は必ず利用者様との信頼関係を築く事に努めている。		利用者への質の高い支援に向け、学習の為の一時の異動を、今後、職員と利用者様との馴染みの関係を崩さない様に、行う必要があると思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者・職員の育成の為、月一回、様々な勉強会を行っており参加を集めている。また法人外での勉強会へも参加している。また業務中でも、食事、排泄、入浴等、様々な場面において適切な対応を行える様、皆で話し合いを行っている。</p>	<p>日常、様々な場面で管理者が自ら手本となり現場に入り、他のスタッフの教育を行う必要があると思われる。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者や運営者は勉強会・会議・社内インターネット等で地域の同業者との交流を図れる機会はあるも、現状、職員間での他同業者との交流の機会は、設けられていない。</p>	<p>今後、他同業者との交流、情報交換の場を設ける必要がある。その為には管理者・運営者を中心に他同業者と話し合いを行い、勉強会・親睦会を通じ、職員間での交流を行える場を設ける事が必須である。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>不満やストレスに対し、気軽に相談できる様に、運営者・管理者は環境作りを行っている。また相談を受けた際には、必ず理解・納得できるまで話し合いを行っている。また月一回、食事会等を通じ、介護へのストレスの発散の場を設けている。</p>	<p>管理者・運営者は今後も気軽に相談・質問が出来る様、環境作りを行う必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者を中心に職員個々の目的・目標を把握し、その実現に向け助力し、日々、向上心を持って働ける様、努めている。また諸事情により働く事の難しい時間帯がある職員へは、無理に働いて頂かぬ様、配慮し働きやすい環境を作っている。</p>	<p>現在は、年一回、人事考課や管理者による面談を行い、人事考課では口頭だけでなく書面で、その人の能力、実績が、わかる様にしており、自信を失う事や、今後の目標が見つかる様、アドバイスを行っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>生活するに当たって本人が困っている事・不安な事を初期の段階から利用後も常に職員間で把握する様に努め、生活の中で常時、不安・悩みを聴く機会を作っている。また本人が不安に思っている事は早急に解決出来る様、スタッフ会議を通じて皆で検討し安心して過ごして頂ける様に努めている。</p>	<p>今後も利用者様の安心・安息に向け全職員で各利用者様の不安・悩みを把握し、統一した支援を行える様、徹底した体制を継続する必要がある。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用前に御家族から不安事・心配事を必ず聴き、職員間で把握し、安心して利用できる様に配慮を行っている。利用者様本人の不安同様、早急にスタッフ会議を行い、皆で検討を行っている。また面会時や電話連絡の際にも不安等を聴き、日々、改善に向け努めている。</p>	<p>行事等には家族の参加を集い、交流を深めているが、気軽に相談できる環境作りとしては、各階毎に家族との親睦会や勉強会を行い、話やすい雰囲気を作り続ける事が必要である。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランの作成において、本人・家族が必要としている支援を必ず第一のサービス内容とし、他のサービスにおいても必要な事は全てプランに載せ全職員にて統一したサービスの提供を行っている。		今後も、利用者様、御家族の要望・不安をケアプランの載せ、第一のサービスとして支援する事によって、安心して利用して頂く。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	初期プランにおいて、どのサービスよりも先行して行っている事が、他利用者・職員の交流や、場の雰囲気に馴染んで頂く事であり、リロケーションダメージの軽減や、親しい友人が出来る事により安心して過ごして頂ける様、努めている。		入居の際は、必ず環境に馴染んで頂く為、初期プランに他利用者様や職員との交流のサービスを載せ、実施する事により、少しでも不安なく過ごして頂ける様、配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	管理者は、職員が、利用者様を支援する立場の一方で、利用者様を人生の先輩として尊重し、様々な人生の経験の中での知識・知恵を学ぶ事を忘れず、また一人の人間として考え、職員・利用者様の立場にこだわらず、共に過ごし共に笑い共に悲しむ気持ちを持って日々、努める様に、育成している。また当ホームの理念でもある。		調理や裁縫、洗濯等は職員が職員へ教えるだけで無く、利用者様から職員へ教えて頂ける様、職員は聞く姿勢・学ぶ姿勢を持ち、支援を行っている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	管理者は、御家族と行事や電話連絡の際、近状報告の為、交流を図る機会はあるも職員は、あまり機会が無く、現状では気軽な関係とは言いがたい。		職員は各御家族の要望・不安を理解し納得しているが御家族との交流は、あまり無く、今後、各階にて親睦会・勉強会を開催し職員と御家族との交流の機会を設ける必要があると思われる。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	催し物等の際は御家族に参加を集い、利用者様と御家族と一緒に過ごせる機会を作っている。また面会時も、お茶を出したら、すぐに退室し利用者様と御家族の時間を極力、裂かない様、配慮している。		遠距離の為、面会に来られない方へは、今後、各催し物等の際に撮った写真や本人が書いた手紙を郵送する事により、現在の状況や笑顔等、電話では、わからない事を伝えていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や御家族の昔馴染みの関係が途切れない様、行動に制限せず、馴染みの床屋や友人の面会、昔からの趣味を行う場面が多々、見られている。		今後も利用者様の昔馴染みの関係、場所、趣味が継続される様、まずはフェイスシートを活用し、またスタッフ会議等を行い全職員に把握する事によって、関係が途切れない様、支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の際やお茶の時は利用者様同士の関係を配慮した席になっており、話しやすい環境作りを行っている。また利用者様が他利用者様の為、車椅子を押したり、トイレ誘導を行っている場面が見られ、その際は、雰囲気壊さない為、職員は見守りを行っている。		職員は仲の良い友人関係を把握し生活の中で、親しい友人と交流を図れる様、気を配っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用後も、継続的な関わりを必要とする利用者様や御家族に対しては、気軽に相談できる関係を作っており、随時、どんな相談でも受け付けている。		利用後も、介護に対する相談・助言を行い安心して過ごして頂ける様、関係を断ち切らない付き合いを行う必要がある。(利用後も当ホームの催し物へ参加を促す・定期的に職員の訪問等)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初期から現在において常に意向や意見を聴き、全職員で把握し安心して暮らせる様、努めている。また意向や意見を聴く事が困難な方には、御家族や本人の視点に立った上での安心できる生活を実現できる様、職員で話し合い実行している。		利用者様からの希望・要望・想いはスタッフ会議や会社内インターネットを活用し皆が把握できる体制が作られている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期の段階で、これまでの経過や生活歴、暮らし方を聴き、フェイスシートに書き全職員に把握する様、努めている。また日常の様々な場面でも昔の事を話して頂ける状況を作り、定期のスタッフ会議にて情報の交換に努めている。		入居の際に、介護支援専門員が利用者様のフェイスシートを作成し、生活歴や過去の職業等を、管理者が中心となり職員に把握して頂いてる。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプランを元に、現在の心身状況、残存能力、一日の過ごし方を考慮したケアプランを作成し、全職員で評価し、各利用者様に適したケアプランを作成している。また暮らしの状況を記録に入力し管理者を中心に総合的な状態の把握に努めている。		一日の中で、特変等は会社内のインターネットを活用し全職員に把握できる体制が確保されている。またカンファレンス議事録や記録も、いつでも見る事ができ、皆で状態の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員は、サービス担当者会議にて御家族の意見や、利用者様の現状、身体の状態等、密に話し合い、全ての意見を配慮した上での、ケアプラン作成に当たっている。また3ヶ月毎のケアカンファレンスでは職員の意見を聞き、本人に適したケアプランを作成している。		現在、3ヶ月毎にケアカンファレンス会議、モニタリングを行っておりケアプランの見直しや、プラン以外での気付いた事、問題点等を話し合い次のケアプランに繋げている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に全職員とケアプランの評価・見直しを行っている。また急な状態変化に対しては迅速に家族に連絡し今後についての意見を求め、管理者や職員、介護支援専門員と話し合いの場を設け、その都度、状態に適したケアプランの作成を行っている。		3ヶ月毎のケアカンファレンスには必ずケアマネージャーも参加し、各利用者様の現状把握に努めている。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、入居者様の状態や様子を見て、その場で細かく記録し必要によっては会社内のインターネットを活用し情報の共有を行っている。		各利用者様の行動、食事、排泄等、細かく記録に記載しているも現状、記録を見直し、次回のケアプランに反映されているとは言いがたい。今後、記録も活用し各利用者様の適したケアプランを作る必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様・御家族の要望に応じた、様々な対応を行っている。		希望・意見が聞かれた際は皆で話し合い、極力、希望に応えられる様、検討を行い柔軟な対応を行う必要がある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会を中心に、地域の学校・ボランティアの協力を得て、利用者様のご要望に応じた対応が出来る体制が作られている。また防火訓練等を通じて、消防との緊急時には迅速に対応が出来る様、図っている。		ホームヘルパー2級の実習生や臨床福祉専門学校のボランティアの受け入れも行っているが、地域資源として協働している所は、現状、限られており、今後、協働の幅を広げる必要がある。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居の段階で他の機関を利用していた場合は極力、その機関の担当者と情報交換を行い活用している。また必要があれば随時、情報公開を行っている。		現在、利用者様の支援において特に他サービスを必要としていないが、今後、必要に応じて他のサービス機関とも協力し、満足した支援を行う必要がある。また職員は他のサービスの情報を学ぶ必要がある。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の際等には包括支援センターの方への意見・意向を聴き様々な場面(ケアマネジメント・運営方針等)で参考にさせて頂いている。		運営推進会議の際には、必ず参加して頂き意見を頂いているも、それ以外では特に繋がりはない。また包括支援センターについての知識を勉強し協働を図れる取り組みを行う必要がある。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力機関である函館ベイサイド病院を中心に、特に制限は無く、馴染みの医師や、かかりつけの医師がいる利用者様へは自由に受診・相談を行える様、配慮している。また特に馴染みの医師等がない利用者様へは、函館ベイサイド病院を元とし健康管理に努めている。また函館ベイサイド病院の看護士と連携し週一回、訪問して頂き健康管理の為の適切な助言を頂いている。		健康管理に関しては看護士の訪問の際に適切な助言・指示を頂いている。また必要に応じて他の医療機関(皮膚科・眼科)も看護士と相談の上、活用している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力機関である函館ベイサイド病院の医師は認知症ケア専門士でもある為、健康管理の為の悩み事等は看護士を通じて随時、相談が出来る体制が確保されている。		長年、利用者様に携わっている医師は認知症ケア専門士である。また当ホーム内にも認知症ケア専門士があり、いつでも相談・助言を頂いている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	現在、医療連携体制が確保されており、週一回の看護士による訪問にて日常の健康管理の為の適切な助言・指示を頂いている。		有事の際には常に医療連携看護士との協力体制が確保されており、その都度、医療面での適切な助言、指示を頂いている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は必ず入院先に利用者様の情報(好きな食べ物、排泄パターン等)を提供し入院中も安心して過ごせる様に努めている。		入院中も、現在の状態や退院の見込み等、常に医師と相談、話し合いを行い、早期退院に向け、情報交換を行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在、医療連携体制を確保しており、看取りを希望する際には、早急に御家族・医師・看護士と担当者会議を開催し終末期に向けての今後の方向性等を十分に検討し、その旨、全職員に把握する体制が確保されている。		看取りを希望する際、必ず担当者会議を開催し、終末期に向けての方向性を担当医師、看護師、家族、職員で話し合い全員で利用者様が生涯、安心して過ごして頂く様、検討している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向け、医師・看護士・御家族と十分、検討の上、必要に応じては訪問看護等、他の機関を紹介し、御家族・利用者様共に安心して暮らして頂ける様、取り組んでいる。		現在、医療連携体制による看取りを行っているも、状況、容態によっては様々な医療機関とも連携を取り、終末期に向け、不安なく生涯を過ごして頂ける様、連携を密に行う必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の居宅へ移り住む際や、入居の際は必ず前の居宅・自宅の関係者に利用者様本人の情報収集を行い、住替えによるダメージを最低限に抑える様、努めている。</p>		<p>今後も入居の際だけでなく、在宅復帰等で退去される方には、今後も安心して生活を送って頂ける様、御家族や居宅のケアマネージャーへの情報提供を行う。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>全職員に入社から現在に至るまで日々、言葉使いや対応を十分に気をつける様、管理者を中心に指導し、また会議の際等の議事録にも本人の名前を書かずに居室の名称を書く等して個人情報の保護に努めている。</p>		<p>利用者様との信頼関係が深まるにつれ、言葉使い・対応が友達化してしまう傾向にある為、どんなに深い関係になっても利用者様を尊び、丁寧な対応を行う事を、全職員に今後も、より一層、指導が必要である。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日頃から常に観察を怠らず、本人が持っている能力を最大限に活用して頂ける場面(調理・洗濯・掃除等)を作っている。またお茶の際や着替え時等も、本人に好きな物を選んで頂き、満足して頂ける様、配慮している。</p>		<p>グループホームの目的は自立支援であり快適に過ごして頂ける事なので、現状に甘んじず、今後も更に利用者様の活躍の場を見つけ、増やす事で、残存能力の活用や認知症進行の防止にもなる為、日頃の観察を怠らない事が必須である。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>常に利用者様を優先し、その人のペースに合わせて職員が行動している。また、極力、団体では無く個別に対応した支援を行い、希望や意向にそった支援が行われている。</p>		<p>随時、利用者様の希望・意見を聴き、極力、希望にそった支援を継続して行える様、柔軟な対応を日々、職員に指導を現在も徹底している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で選べる方には、着替え時等に、本人の満足する物を自分で選んで頂いている。また現在、出張理美容を活用しているも、好きな理髪店・馴染みの理髪店がある方には自由に行って頂いている。</p>		<p>利用者様によっては御家族と共に馴染みの美容室へ行っている方も、おられる。特に制限等をしていない為、今後も馴染みの所へ行って頂く様、支援を行う。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>日々の会話の中で本人の好きな物・嫌いな物を聴き、食事には十分に配慮している。また食事の際は、必ず職員と共に食事し、賑やかな雰囲気の中で食事をされている。</p>		<p>食事は日々の生活の中で欠かせない事なので、より一層、食事を楽しんで頂ける様、職員の声掛け、雰囲気作りを行う必要がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	会話の中で、好きな飲み物、食べ物を聞き、極力、一人一人に合わせて楽しんで頂ける様、配慮している。また食事に関しては、利用者様の嫌いな食事が出た際は、その方のみ他の食事をして頂き、満足して頂いている。		喫煙・飲酒を望む利用者様が居る際には、御家族・医師に相談の上、極力、希望に応えられる様、配慮する必要がある。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	記録を活用し、個別に排泄パターンを把握しトイレでの排泄や自力での排泄に向け定時間毎に誘導を行ったりトイレの声掛けを行っている。		常に利用者様のトイレでの排泄を念頭に置き、個々の排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行い、その結果、オムツの使用量も少しずつ減少されている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の時間帯に制限をしておらず、本人の好きな時に入浴して頂ける様、配慮している。現在は夕方、夜間を希望する利用者様はおられず。		日中は、好きな時間に入浴して頂いているが、朝方や夜間の入浴は現状、難しい。朝方、夜間の入浴を希望する利用者様が居る際は、他階への協力を求める等の体制を確保する必要がある。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ホール内には多くの座椅子がある為、好きな時に休んで頂ける環境である。また、記録を活用し、睡眠状況を把握する事で、安心して睡眠が出来る様、配慮している。		ホール内や廊下には多数の椅子やソファがある為、利用者様は気兼ねなく好きな場所で休んでいる。また天候の良い日は畳で休まれている利用者様も見られる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活の中で、家事作業や、レク等、様々な場面で、本人の力を活かした役割・楽しみを見つけ、記録に記載する事で、職員間で把握し、継続的に残存能力を活かした場面を作っている。		利用者様、個人が持つ、残存能力を活かせる様、一人一人に合った様々な作業やレク(食材切り・モップ掛け・マージャン)等を行い楽しみ事や生きがい、活躍の場を見つけ提供している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来る方へは、極力、本人で管理して頂いている。金銭管理の難しい方へは管理者が管理しており、特に使う際に、制限しておらず、自由に使ってもらっている。		管理者が管理を行っている方へは、金銭管理台帳を作成しており金銭の出入りの際は、必ず台帳に記載し面会時に家族に見せ、確認を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望時には、気軽に外へ出かけている。また希望の無い方へは、定期的に外出を促し、ホーム内にこもらない様、努めている。		利用者様の希望によっては、朝方・夕方等の時間帯も考慮し、また実現に向けての勤務体制を確保する必要がある。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	特に外出の制限はしていなく、本人の好きな所へ行く支援を行っている。また旅行・長期の外泊等の際には、御家族の助力を得、極力、実行している。		年に一度、利用者様や職員・御家族で旅行等を計画している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族や利用者様本人の希望によって、居室内に電話を設置し、自由に電話の、やり取りができる様になっている。お手紙の、やり取りは、余り無い。		今後、定期的に本人の、お手紙付きの写真を郵送する事を検討している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居心地よく過ごして頂く為、雰囲気作りに配慮し、また面会時間も特に制限なく、場合によっては夜間の面会にも対応している。		面会に来られた際は、極力、面会者と利用者様の時間を裂く事の無い様、お茶を出したら、速やかに退室し家族の時間を大切に頂く様、配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で身体拘束廃止委員会を設立しており、全職員に身体拘束への知識や意識を高める様に、努めている。またベットの柵を設置しなければならない状態の利用者様については必ず御家族の同意書をもらい、早期撤去に向けてのケアプランを作成している。		今年度より、当法人内で身体拘束廃止委員会を立ち上げ、各部署で起きたインシデント・アクシデントを各リスクマネージャーで検討を行い、その情報を全職員に社内インターネットを使用して伝えており、意識の向上を図っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は一日中、鍵を掛けていない。玄関も日中は開放されているが、夜間は防犯の為、施錠を行っている。		居室に鍵を掛ける行為は、身体拘束でもある事を全職員が理解し利用者様本人が鍵を掛ける場合を除き、昼夜、一切、鍵を掛けていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時、ホール内を見渡せる位置に最低職員一人はいる様、管理者を中心に指導を行っている。また、特に注意が必要な方へは、所在が把握できる位置へ極力、誘導を行ったり、自室にいる方へは、一緒に自室で過ごしたりし、安全確保に努めている。		比較的、新入職員が多い為、個々で動いている事が多く、その事が事故の危険性に繋がる事がある為、今後は職員の声掛け(居室に入る時は必ず他職員に声を掛ける・最低ホールに一人、職員がいる様、職員同士声を掛け合う)等を行い、安全に過ごして頂ける様、管理者を中心に指導を行う必要がある。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や危険物は利用者様の手の届かない所へ、薬物に関しては職員が管理をしている。また刃物等を使う際には、必ず職員が見守りを行っている。自室に果物ナイフ等を持っていて、必要な時に使っている方もいるが、安全に使えるか、一度、職員で検討を行ってから使っている。		基本的に刃物・薬物は利用者様の手の届かない所へ保存しているが、利用者様によっては自分で服薬の管理を行っている方や自室にて果物等を食べる際に使う刃物等を持っている方もいる。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事業所内で事故防止委員会を設立しており、全職員へ事故への知識や意識を高める様、指導している。また、緊急時や、行方不明時、火災時等へのマニュアルも完備されており、日頃から、管理者を中心に、マニュアルの把握に努めている。		インシデント・アクシデントが発生した際は、早急にスタッフ会議を開催し原因の解明を行っており再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応の勉強会を行い、応急手当や初期対応の学習を行っている。また、マニュアルも完備されており、全職員が把握する様、指導しているが現状、全職員が把握しているとは言いがたい。		消防の方に来て頂き、緊急対応の勉強会を行ったり、緊急対応のマニュアルを作成しているも、全職員が明確に把握しているとは言いがたく、今後、スタッフ会議や勉強会を通じ、いち早く全職員は適切な対応を行える様、指導を行う必要がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防の協力の下、年二回、避難訓練を実施しており、災害の際には、迅速に避難できる方法を学習している。		当ホームは五階建てであり、非常階段を設置しているも、避難しづらい為、全職員が火急の際には、迅速に行動できる様、定期的な勉強会・避難訓練を継続して行う事が必須である。また消防との協力体制は確保しているも、地域との協力体制は出来ていない為、協力を得られる様、働きかけを行い災害時の避難場所等を早急に検討しておく必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用前や担当者会議の際に、十分に今後、起こり得るリスクを説明し御家族に理解を頂いている。		担当者会議の際、今後、起こりうる、あらゆるリスクを介護面・医療面で家族に説明を行い家族・医療・介護で十分に話し合いを行い今後の方向性を決めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>現在、状態の異変等だけで無く会社内での決まり事等も、社内のインターネットを活用しており、情報の交換はスムーズに行われている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>症状の変化については、医療連携の看護師と随時、連絡を取り、その時の状態を細かく観察し記録に残す様、指導を行っている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>記録を通じて利用者様全員の排便状況を把握しており、便秘予防としては、適度の運動や乳酸菌の摂取、便秘の対策として腹部マッサージや、時には下剤を用い対応を行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>口腔内の不潔における生活の中での悪影響をスタッフ会議で説明し皆で口腔ケアを実施している。またケアプランにも記載されている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>現在、カロリー量までは把握できておらず、比較的、体重が増量傾向にある為、今後、適度な運動やカロリー軽減に向け、対応を検討する必要がある。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症のためのマニュアルが完備されており、実行されている。汚物等に触る場合も必ず手袋を着用する事や、手洗い・消毒に心掛けている。また毎月一回検便も行っている。</p> <p>感染症に対する皆の意識や知識を高め、トイレ誘導等の際は必ず手洗い・消毒を行い全職員で気を付けて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具等は、毎日欠かさず漂白を行って衛生に気をつけている。食材に関しては賞味期限等を必ずチェックし食中毒の予防に努めている。		当ホームにある調理マニュアルを参考にし、食材や調理器具の衛生に努め、安全な食事を提供している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にはソファーやテーブル等、家庭用品を設置しており、くつろいで頂ける空間になっている。また四季折々の花や置物等があり、訪れた方に威圧感を与えない工夫をしている。		今後も、訪れる方に対し、威圧感等を与えない様、日中は施錠を行わず、気軽に座って話せるソファーの設置や、四季折々の花を飾り、訪れやすい環境作りを行う。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	随時、換気を行っており、利用者様に快適に過ごして頂ける様、配慮している。また当ホームは海側に面しており、特に不快な音は無く、さざ波の聞こえる落ち着いた環境であり、日当たりも良い。		落ち着いた環境ではあるも、若干、殺風景な為、今後、職員や他利用者様の手作りの作品(パズル・折り紙)等を提示し賑やかな雰囲気作りを行う必要がある。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になれる空間として、各利用者様の居室があり、楽しく交流できる空間としてはホールや廊下に、数々の椅子を設置しており、好きな場所で自由に話し合いを行う事が出来る。		ホールやソファーにて親しい友人同士、気軽に話す場面等が見られており、楽しく過ごして頂いている。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には極力、本人の使い慣れた品物を持ってきて頂く様、御家族に促している。その事により、仏壇や昔から使用している椅子・食器等を持ってきている利用者様が多数である。		本人の使い慣れた物(食器・タンス・椅子)等を持って来て頂く事により、安心して過ごして頂いている。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレは毎日、欠かさず掃除し、芳香剤を置く等し、においに気を配っている。また生ゴミや汚物等のゴミは新聞紙に包みゴミ袋に隙間が無い様、きつく締め、早急にゴミ場へ出している。また随時、温度調節を行っており、快適に過ごして頂ける温度にしている。		汚物等のゴミの出し方にはマニュアルを作成し、汚物や袋の空気を抜き、新聞紙に包んで捨てる事や、ゴミ箱に入らない物は無理に詰めない等、全員で徹底して行い臭い、ゴミの散乱に気を付けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>浴槽は建物の構想上、やむおえない為、浴槽に入る際は、必ず、見守り、介助を行い、安全を確保して安心して入浴して頂く。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>各場所の名称を記載した札は貼ってあり、わかりやすい作りになっているも、少々、殺風景であり、日常生活の中で利用者様や職員が作った作品(パズル・折り紙)等を提示する事で、温かい雰囲気を作る必要がある。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>外の空間に植物等を植えたいが現在は、ホーム内のホールや居室で植物を育てている。駐車場のスペースは焼肉や流しソーメンを行い、十分に活用していると思われる為、今後も継続していきたい。</p>



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>常に職員で利用者様の希望・意向を把握し実現に向けて日々、支援している。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>最低一日一回は利用者様と共に、お茶をしたりして話し合いの場を設けている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>当ホームには行動に制限が無く、自由に過ごして頂いている。今後は利用者様の希望にそった支援を行う必要がある。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様が生き生きと過ごして頂く為の対応を全職員で検討し実施に向けて努力する必要がある。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>外出の希望のある方は自由に外出されている。希望の無い方は職員で外出を促し外出されている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携体制により比較的、利用者様の健康面の不安は解消されたが、依然として不安を持つ利用者様もいる。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望や状況に応じて適切な対応を行っており、利用者様は安心して暮らせていると思われる。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>職員と御家族との信頼関係は薄く、親睦を深める事が今後の課題である。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>たまに地域の方や小学生が訪れ、見学等をされている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	現在、地域を通じて少しずつ応援者が増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員個々の目標の実現に向け、管理者を中心に一所懸命に努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	現状では、まだまだ改善の余地がある為、利用者様はあまり満足されていないと思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	御家族の希望には早急に応える様に、配慮しているが、今後より一層、希望に添える様、日々、努力が必要である。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームは2つの町内会に属しており、お互いの催し物(餅つき・お祭り)等には必ず参加をし交流・連携を密にしている。また同法人には当ホーム以外に3つのグループホームがあり、それぞれ、田植え、お祭り等や勉強会等を行ない協力して、サービスの向上を図っている。今後は他の法人の施設とも交流を図る事を予定している。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム よろこびの家 5階	評価実施年月日	平成19年6月25日
評価実施構成員氏名	高田 ・ 谷藤 ・ 伊勢谷 ・ 佐々木 ・ 山下 ・ 鮫川 ・ 渡邊 ・ 前川		
記録者氏名	高田	記録年月日	平成19年6月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	以前までは「よるこびの家5か条」があり週一回、朝礼で読み上げていたが殆どの職員が見ないで読むことが出来ず職員に浸透していなかった為、昨年8月に理念を再構築を行った。その際、プロジェクトチームを作り全職員からアンケートを取り一人一人の意見を参考にし、自由を守ります・プライドを守ります・ゆとりを持ちます・おもいを大切にします・分かち合い共に生きます・の理念が出来上がる。	○	毎朝、朝礼で職員が交代で理念を読み上げているが全職員が完全に理解をしているとは言いがたい。今後も継続行い全職員に浸透を図って行きたい。今年2月、道南グループホーム連絡協議会で「理念の再構築」と題し事例発表を行っている。理念の大切さをスタッフ会議で話し理念に添った介護を目指している。
2 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、朝礼で職員が交代で理念を述べたりカウンター前やスタッフルーム内に誰でも見える所に掲示し、プランにも理念を取り入れ日々取り組みをしている。		理念に添った介護を目指し以前は無かった18時以降の入浴時間の自由を取り入れる為にスタッフ会議で話し合い、職員の都合で入浴するので無く、利用者様本位に自由に好きな時に入れるように取り組みを行い、18時以降の入浴が行われている。現在も取り組みは継続し入居者様のおもいそして職員のおもいを大切にしている。
3 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	広報誌に理念を掲載したり、運営推進会議でも理念の大切さを述べている。		現在、理念の説明を行っているまだ、不十分である。今後、理念を生かしながら関わって行きたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の子供達が当ホーム敷地内で遊ぶ姿は見られるが大人の方々とは、日々の挨拶や夏祭りの招待状を送ったりしているがまだ気軽な付き合いが出来ているとは言えない。	○	近隣の方が何時でも気軽に遊びに来てくれる開かれたホームを作って行きたい。
5 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の町会の催しや小学校の行事に参加し交流は活発で催しのお手伝いに来ていただいたり、こちらからも町会のお手伝いに参加しお互いに行き来をしている。時には高校生のボランティアも来られている。		参加された利用者様の関心も高く「また行きたいね」との言葉聞かれ、今後も地域との交流を大切にしていきたい地域での役割・グループホームをより理解していただきより良い関係が築けるよう広報誌・運営推進会議で話をしていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣中学校から一日企業体験学習や小学校の体験学習時には地域のゴミ拾いに参加し利用者様に協力をしていただいている。	○	今後、近隣に向けた独自の取り組みを考えて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ会議で自己評価の意義を説明し、年一回に外部評価の意義を説明し評価の結果を参考に今後の改善に努めていきたい。</p>	○	<p>昨年8月に外部評価で洗剤と刃物の置き場を指摘されすぐさま改善をおこなっている。職員一人ひとりが評価で改善できるところは改善して行きたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に一回運営推進会議を行い、そこでの意見を今後のサービス向上に繋げて参加者の意見や質疑応答で情報共有化を行っているが現在、参加者数は減少し今後どのように会議をすすめてよいか検討している。</p>	○	<p>参加者からの意見交換が少ない為まだ遠慮と浸透されていると思われる。次回は開催時間の見直しや参加しやすいように対応しサービスの向上に繋げて行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>現在、市町村主催の勉強会に参加しているが運営推進会議に限られている。</p>	○	<p>今後、市町村と連携を図りサービス向上に取り組んで行きたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する講習に参加し概ね理解しているが現在権利擁護を必要としている利用者様がおられない為活用はしていない。</p>	○	<p>現時点で対象者がいなかったが今後必要に応じ市町村・包括支援センターと連携を取りながら行い今後に向け研修会に参加し実際に起こった事例を参考にし取り組んで行きたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>当施設、全グループホーム内に身体拘束廃止委員会があり2ヶ月ごとに会議を開き防止に努め職員は利用者様の尊厳を大切に虐待防止に努め職員一人ひとりが起こさないためにはどうしたらよいかをスタッフ会議や身体拘束廃止委員会でも話し合いしている。</p>	○	<p>身体拘束委員会のなかで事例検討を行い、身体的な虐待だけでなく言葉の持つ意義も話し合い今後も身体拘束廃止に努め、新規採用者には高齢者虐待の感想文を書いてもらっている。</p>
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解除のとき利用者様や家族に十分説明を行っている。理解・納得をされない時は何度でも説明・対応をその都度行い不安が無いように努めている。</p>		<p>その都度、ご家族・利用者様と話す機会を設け相談に助言が出来るようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見、不満、苦情があった時はスタッフ会議や管理者会議で話し合い原因・改善策を話しその結果を職員に議事録として情報を公開と共有し、今後につなげている。		同建物ユニットだけでなく、当法人グループホーム全体で情報を共有しインターネットにて全職員に議事録を送っている。全体の管理者会議で詳しく説明している。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態に変化がある時は電話連絡行い、面会時には暮らしぶり・健康状態・催し等を伝えている。面会になかなか来れない家族には電話やハガキなどで随時報告している。		職員異動の際は家族と相談の上、利用者様に伝えるかを話し合い家族の意向を優先している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年一回アンケートを実施し集計結果を誰でも観覧出来る様に掲示し、家族の意見を重く受け止め改善をはかっている。苦情に対しては原因を探り改善策をスタッフ会議・管理者会議で話し合い苦情処理簿に記載し内容・対策・今後の状況などの情報を共有出来る様に努めている。		今年度は6月にアンケートを実施し、家族の意見を参考に改善を行っている。苦情対応後、全グループホーム管理者会議で内容・対応までの経過を報告し情報を共有して、同じ苦情が起こらないように努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月二回のスタッフ会議や院内専用インターネットで意見を聞ける機会を設け業務改善や会議の開催・議題・提案・意見を個々に聞ける体制作りをしている。		勤務が合わなくても個々がインターネットを使い言葉で言い辛い事でも活字で話せている。定期的な面談も行っている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況に応じ必要な時間帯を考慮し勤務表の作成・調整を行い、必要な時間帯をスタッフ会議で話し合い勤務時間の変更も行っている。		必要に応じ勤務時間の変更をしている遅番11時～19時を12時～20時夜間帯の入浴が増えた為勤務時間の変更をしている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職の際は、前もって家族に連絡行い入居者様のダメージを最小限に防ぐよう家族とどのように話していいか相談をしてから伝えるように心がけている。		同じ建物内の移動時は、職員が頻繁に顔をだしたり時には話相手になってくれたりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的な勉強会の開催と法人外の勉強会の参加を呼びかけて研修を受ける機会を確保している。</p>	<p>○</p> <p>ユニットと持ち回りで月一回の勉強会・当法人でも不定期だが勉強会を開催し今後も継続行い、市町村主催の勉強会・北海道グループホーム連絡協議会主催の勉強会にも参加しているがまだ、十分ではない今後も積極的に参加して行きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣施設とは、行事の時など互いに行き来したり、グループホーム連絡協議会でブロック分けをしておりその中で定期的に勉強会を開催しネットワーク作りをしている。また同法人グループホーム内でも合同で勉強会を開催したり、インターネットで情報交換しお互いに行き来をしサービス向上を図っている。</p>	<p>同法人以外の施設とも交流があり、夏祭りの行き来や花火大会の見学など利用者様はもとより職員間の交流も行っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的な面談や言葉で話せない時は、インターネットを通じ話を聞ける体制や環境を整えストレスの軽減や休み時間は出来るだけ建物の外に出て気分転換を図っている。</p>	<p>自分のユニットの管理者にいけない事がある時は、他のユニット管理者が変わりに話を聞いたりアドバイスをしている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>定期的の人事考課と面談を行い職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が常に向上心が持って働けるよう努めている。</p>	<p>年一回の人事考課の実施と必要に応じ面談行い一人ひとりの状況に応じアドバイスを行っている。職員が自信がもて向上心を持って働けるように努めている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者と管理者が中心になりご本人と面談し十分話を聴き、不安や求めている事を受け止める努力をしている。</p>	<p>入所後はスタッフ会議やカンファレンス会議で話し合い、利用者様の求めている事や不安な事を職員間で情報を共有し今後のケアに繋げている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者が、家族との面談の時に現状や困っている事・不安な事などを聴き今後についての相談・助言をし受け止める努力をしている。</p>	<p>誰でも気軽に相談・見学に来られる様に、事前連絡なくても受け入れその時に困りごとなど十分聴いて助言を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時、本人・家族の状況を見極め近隣の施設と連携を取り対応している。		相談内容や緊急性を考量し他の施設やサービスの紹介・助言などを行い、他の施設の空き情報も伝えている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族に見学して頂き納得した上でサービス開始をしている。その時、入居予定ユニットでゆっくりくつろいで頂けるよう心掛けている。		納得が出来るまで、何回でも見学して頂き、おやつやお茶などを入居者様と同じテーブルで食べていただき、体験をして頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	過去の経歴を踏まえながらコミュニケーションを図り、人生の先輩である事を念頭に置きさまざまな事を学んでいる。		若い職員は利用者様から料理や裁縫を学んだりしており、生活を通し互いが学びながら暮らしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	催しの参加の声掛けを行い、家族と共に外出したり職員と家族がご本人を支えて行く関係を築いている。		催しのたびの家族に連絡をいれ参加の声掛けを行い、毎年花見の時は家族と共に桜を見ながら食事やドライブを行っている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員間で情報を共有し、家族関係を把握し個々に対応しよりよい家族関係が築けるように支援している。		入居前に生活暦や家族関係をさりげなく聴き、担当者会議で話し合ったり、絶縁関係の方のキーパーソンに関係が修復できるのか確認したり時は、ご本人了解のもとで連絡を取ることもある。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	面会に制限は特に設けていない為、ご本人の旧友や近隣の知人も訪問され馴染みの関係が途切れないう支援に努めている。		天気の良い日は、自宅へ車椅子で出掛けたり、思い出の公園で散歩や友人宅に遊びに出掛けている。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は利用者様の性格・生活歴を把握し利用者様、一人ひとりに合わせケアを行い共に支え合える出来る様に努めている。		歩行が安定している利用者様が、杖歩行の方の手をつないで歩いたり食欲が無い時は励ましてくれたり微笑ましい場面が見られる。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じその都度、相談・助言を行い退居後も関係を断ち切らない付き合いに心がけている。		退居後も病状の事で相談にのったり、家族が出張で留守の時は緊急連絡先になったり退居後も関係が保たれ必要に応じ対応している。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的カンファレンスを行い希望や意向を把握し必要に応じカンファレンスを行っている。		今後の暮らし方を本人・家族から話を聴き、カンファレンス会議などで職員間で話し合い意向を尊重に心がけている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族・ご本人・関係者に生活歴や必要事項を把握しフェイスシートを作成している。		フェイスシートをもとに生活歴を職員間で把握し、入居後も家族面会時に情報収集行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝・夕の申し送りの中で過ごし方や心身状態を伝え一日の過ごし方を把握し一人ひとりの有する力が出せるように努めている。		日勤者が中心に遅番・夜勤者に申し送りをしその日の出来事状態を伝えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的な話し合いや必要に応じ会議を開き介護計画に反映するように心掛けしている。		3ヵ月ごとの見直しを行いカンファレンス会議、モニタリング後必要事項の追加や終了を行い、家族の意見を尊重し薬の管理・通院・行っ下さる方はプランにも上げている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しその都度会議を開き家族の意向も計画に反映している。		介護支援専門員はカンファレンス会議参加し現状の把握や、家族・ご本人からの聞き取り後、事項の追加や終了行い新規プランにつなげている。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、一人一人の記録はもとよりスタッフ間での情報交換としてインターネットを活用している。		記録は、「ちょうじゅ」というパソコンを利用し日々記録を入力し毎日、記録を印刷してファイリングしている。過去の記録を見たい時は、何時でもパソコンの画面から見られる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人や家族の要望にこたえられるように、その都度話し合いを行っている。		当法人には、グループホームが他に3箇所と病院には療養型病棟・在宅関係や関連グループにはヘルパー2級の講座もあり、ご本人家族の要望が聞かれた時は出来る限り答えられるよう努め、柔軟な支援を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	催し等で近隣町会やボランティアの協力で夏祭り・餅つきが開催されている。町会行事夏祭り・クリーングリーン作戦や小学校主催の行事等にも参加し多大な支援をいただいている。		地域の資源に活用に偏りが見られ今後は多方面に協力と理解が得られよう努めていく。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じ、他の事業所と連携を持ち他のサービス利用までの話し合いを行っている。	○	各種サービス情報を勉強し情報収集に努め現在、一名が毎週一回非営利団体のディサービスに行かれている。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと連携が取れており今後も継続行う。		地域包括支援センターとは現在、2ヶ月に一回運営推進会議での出席や必要に応じ連携を取り、新人職員には地域包括センターを理解していない為今後全職員が理解出来る様に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的な受診の支援を行い、日常的な健康管理は週一回看護職が訪問し医療との連携が取れている		個々のかかりつけ医に職員と一緒に受診行い時には、眼科・皮膚科・歯医者などの定期以外の受診の援助も行なっている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	家族と相談し専門医に受診支援行い、母体には長年認知症に携わっている医師がおり相談・助言が出来る。		同系列施設には認知症ケア専門士が3名おりその都度、相談・助言が出来る。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職を確保していないが、週一回看護職が日常の健康管理や相談・助言主治医との連絡・調整をしていただいている。		医療連携看護師と24時間連絡体制が出来ており、緊急時や医療に関しての相談・助言が出来る体制を確保している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者が入院先病院と連絡・情報交換行い退院に向けての支援行い、日頃から医療機関との連携を密にしている。		入院先の病院と病状の事やいつ頃退院できるのか聞き早期退院に向け主治医と連携をとり今後の対応など話し合いを行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	担当者会議のなかで重度化と終末期について主治医や医療機関・家族と話し合いを行い方針を共有しているがすべての主治医と連携が取れているとは言えない。	○	今後、全ての主治医と協力が出来き利用者様が安心した終末期が出来る様にしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	担当者会議のなかでそれぞれの機関の出来ること・出来ないことを話し合い、主治医を中心に今後の変化に備え検討や準備を行っている。	○	今後も医療機関と連携を取りながらチームとして支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	必要に応じ、情報交換や話し合いを十分に行い住替え時は相談・助言を行いダメージ防止に努めている。		過去に在宅へ戻られた時は、住む所や居宅のケアマネジャーの紹介を行い在宅復帰への支援を行っている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	理念の一つである「プライドを守ります」を職員は常に念頭に置き介護に努めている。		個人情報・記録に関しては、鍵の掛かるところに保管し他者が見えるところには置いていない。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	会話の時は顔を見て話をし一人ひとりに合わせた、説明を行ない常に自己決定が出来る場面を作り支援している。		食事の時なども複数のおかずの中から本人の好きなものを選択出来たり、飲み物は常に選択をし飲んでいただける場面をつくっている。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に職員側の決まりを優先するのではなく、希望に添った支援を心がけている。	○	その日の希望に添った援助行なっているが、まだ十分とは言えない。今後は更なる個別対応を心がけ取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月一回の訪問理美容や昔馴染みの理美容など個々の希望に添った対応を行っている。季節に合った洋服の声掛けや、ご本人が選択できる場面を作りおしゃれを楽しんで頂いている。		現在、2名が馴染みの理美容に通い職員が対応しているが、ときには家族も外出かたがた行っていただいている。
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりがマイペースに食事が出来る様に無理の無いように支援を行い、利用者様、職員と一緒に楽しく準備・食事・片付けが出来る様に行っている。		天気の良い日は、駐車場で焼肉・流しそうめん・スイカ割りをし、お弁当を持ってピクニックなどにも出掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	束縛をしないでご本人の楽しみを奪うことなく安全を考慮し、お酒とタバコに関しては家族・主治医の了解のもとで支援を行っている。おやつのお買出しは利用者様と一緒に買物を行い希望を取り入れている。		喫煙場所を設け、タバコ・ライターは職員が管理している。季節に合ったお菓子の提供をしている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握し、ご本人が気持ちの良いと思える排泄支援を行い、失敗した時は自尊心を傷つけないように速やかに片付けを行っている。		定期的なトイレの声掛け・誘導行いオムツの使用を減らしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日・時間にとらわれる事無く、希望時に対応出来る様に支援行っている。		夜間、入浴を実施しており常に対応できるようにしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調や習慣・状況に応じ様子観察行いながら気持ちよく休めるように支援している。		昼寝の時は、ベッドだけでなく長いすや畳の間など好きな所で休んでいただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	自分の役割や楽しみを活かし張り合いのある生活が出来る様に支援している。		一人ひとりの持てる力を見極め食器拭き・モップ掛け・野菜きり・おやつのお買物・配膳など行っていたりしている。ホームないでマージャン・ゲームなども行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの状況に応じて管理出来る方には管理して頂き、管理困難な方は管理者が管理行っている。		金銭管理台帳を活用し面会時に家族から印鑑を頂き、事務員と統括本部長が確認をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望時、随時対応行い、行事の時は出来るだけ皆が参加されるよう支援行っている。		自宅が近い方は徒歩で行ったり、近隣を散歩したりしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	他のユニットの利用者様と一緒に出掛ける機会をつくり支援行い、時には家族と花見やドライブ・ピクニックに出掛けている。		他のユニットと田植え・畑の草むしり・山菜取りに出掛け季節感を味わっていただいている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望者には、自室に電話器をつけ自由に電話を掛けている。電話の無い方はリースで対応行っている。		遠方でなかなか面会に来られない家族には、写真つきのハガキや手紙で喜びを支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	誰もが気軽に訪問できるように職員は常に心がけている。長椅子や花を置いたり生活感を感じるように心がけている。		利用者様にお客様が見えたときは、出来るだけ邪魔をしないようお茶を出した後はくつろいでいただいている。長く入居されている家族の方は、洗濯物をたたんでくれたり、時には長いすで昼寝をされて帰られる方もあります。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員で身体拘束をしないケアを理解し学びながらケアに取り組んでいる。	○	今年度より、グループホーム独自に身体拘束委員会を立ち上げ、二ヶ月後に会議を開催し事例検討や身体拘束の意義についてを学びケアに繋げている今後も継続し取り組んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者様、ご本人が居室から鍵を掛けて夜間を過ごす方がいられるが職員が居室に鍵を掛ける事は身体拘束である事を理解している。		日中、受付に事務員が常勤している為玄関には鍵を掛けていないが夜間のみ防犯の為、鍵を掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者様のプライバシーに配慮し一人ひとり見守りながら業務を行っている。また職員のペースで業務するのではなく利用者様のペースで業務を行い安全に配慮を行っている。		朝と夕の二回申し送りを行い、その日の様子や状態を伝えている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品は鍵の掛かる場所に保管を決めて管理している。利用者様が使用する際は、職員が付き添い見守りを行っている。		刃物に関しては、日中は高いところに置いていおり夜間は鍵の掛かる所に保管している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデントが発生した時は、その日のうちにスタッフ会議を開催し原因を究明し事故防止委員会での取り組みを行っている。	○	今年度より、グループホーム独自に事故防止委員会を立ち上げ、毎月会議を開催し現場で起きたインシデントについて話し合い、対策と防止策を行っている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応マニュアルを作成しており、緊急時の対応についての勉強会の開催を行っているが全職員が対応出来るとは言い難い。	○	消防隊による緊急時の対応についての勉強会や独自のマニュアルはあるがまだ十分とはいえない。今後スタッフ会議の場などで一人ひとりがきちんと理解出来る様に行きたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署と連携を持ち避難訓練を行っている日中だけでなく夜間想定訓練も行っている。	○	現在、消防署と訓練を行っているが近隣住民の協力を今後、得られるよう働きかけて、災害時の避難先や対策が今後の課題である。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や担当者会議で今後起こりうるリスクを医療・介護の立場で家族等に説明し対応策を話し合っている。		面会時や担当者会議で今後起こりうる、リスクや症状を医療・介護の立場でそれぞれが今後についてを家族と話し合いしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員間でインターネットを活用し情報を共有している。またスタッフ会議で話し合い対応して行く様になっている。		常に医療連携看護師と24時間体制で連絡が取れる体制が確保され異変時は速やかに連絡が出来る。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員一人ひとりが薬の目的・用法・用量を理解し、服薬の介助や声掛け・手渡し・見守り等を行っている。服薬の際は職員間で連絡を取っている。		症状に変化がある時は、医療連携看護師と連絡できる体制が出来ているが家族希望で薬管理の利用者様もいられる。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝、冷たい牛乳やお茶を飲んでいただき適度な運動や腹部マッサージも行っている。		繊維のある食事の提供を心がけ、それでも排便が無い時は医療連携看護師に連絡を行い下剤を服用して頂いている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きを行い出来ない方は職員が介助にて行っている。自立できている方は声掛け行っている。歯科の受診や往診も行っている。		口腔内が不潔になると誤嚥性肺炎になることをスタッフ会議で説明し必要な方にはケアプランに載せている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日を通し栄養バランスが偏らないようにしている。利用者様の食べる量を考慮して盛り付けを行っている。定期的な水分の声掛けや食後にお茶を進め一日の水分量を記録している。		一日の水分量・食事量を記録し誰もが見えるようにしているが、カロリー計算はしていないが、一日30品目摂取出来る様気を付けて調理を行っている
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに添い、汚物を扱う際は手袋を着用、常に薬用手洗い洗剤で手洗いし、消毒に心がけ感染予防に努めている。	○	今後も感染予防に努め、手洗い・消毒を徹底しマニュアルを活用し職員の知識向上に努めて行きたい。毎月検便を実施している。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>使い終わった食器などは熱湯をかけたり、調理器具や布巾は使用后、漂白を行い食中毒予防に努めている。毎食、欠かさず検食を取っている。</p>	○	<p>食中毒予防マニュアルを参考にし手洗い・管理の徹底を行い予防に努め衛生管理を継続していく。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の入り口には、見やすい様に当ホームの名前が書かれており、玄関前には季節に合った花や装飾がしており季節感が感じられるように工夫している。</p>		<p>当ホームは海に面し、塩害で作物が育たないが玄関内には椅子を置き気軽に座れるようにしている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホールや廊下には季節にあった花や四季の催し物などを飾り季節感を味わってもらっている。不快な音や光が無いよう民謡・クラシック・童謡などをかけている。</p>		<p>玄関内や各ユニットには定期的の花屋さんから季節に合った花が届き枯れる時には、また新しい花が届き、花が切れないように心がけている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂や廊下にはソファが置かれており、自由に過ごして頂けるよう配慮がされている。長いすでは気のあった利用者様同士が気軽に過ごされている。</p>		<p>直ぐそばが海に面していて、景色が良く見える5階建ての最上階で波の音や鳥が飛ぶ様子が見える所に長イスを配置し気の合った人が話をする場所を作っている。今後も利用者様が自由で気軽に過ごして頂けるような空間作りを心がけていく。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、ご本人が使い慣れた物や馴染みの物があり、居心地の良い空間を作り過ごして頂けるよう配慮がされている。</p>		<p>使用している居室には、仏壇やご本人作の書道・古くから使っている茶だんすなどがあり。なるべく使い慣れている物を持ってきて頂くよう面談の時に話している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日の清掃時には、窓を開け空気の入替えはもとより、こまめに換気し温度調節に心がけている。</p>		<p>暖房はパネルヒータを使用し、室内の温度に気を使い暑くならないようこまめに換気と汚物は匂いが出ないように新聞に包んで捨て悪臭が出ないようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>当ホーム全体がバリアフリーになっており、ほぼ全てに手すりが設置されている為安全面に配慮がされている。</p>	<p>廊下・トイレ・浴室などに手すりが付いていて、歩行時に手すりを使用し歩いたり、車いす用のトイレも完備している。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの力を把握し出来ることを行って頂ける様声掛け・見守りを行い、混乱や失敗などの場面の時は個々のプライドを傷つけないよう配慮を行い、残存能力を活かしたケアを行っている。</p>	<p>現在、洗濯物たたみ・モップ掛け・買物・食器拭き・盛り付けなど一人ひとり出来る事を行っていただき、強制するのではなく楽しく出来る様声掛けを行っている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日は、近隣の散歩など行い、時には駐車場でバーベキュー・流しソーメン・花火・キャッチボールなど行い楽しんで頂けるように工夫している。</p>	<p>今後も季節感を味わって楽しんで頂けるよう利用者様の希望を取り入れ継続して取り組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>生活暦を参考にし家族やご本人の意向を尊重し理念の1つである「思いを大切に」を念頭に置きケアにあたっている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>食事・家事全般など利用者様が一人ですのではなく職員も一緒に行いゆっくりと過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの生活のペースを尊重しのんびり暮らして頂いている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>場面によって表情は違うが楽しげな姿が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望時、対応行い。職員からの働き掛けをしている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携看護師と24時間、常に連絡が取れる体制整えている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時々々の状況に応じ柔軟に対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>その都度、職員は家族の相談事をよく聴いて不安を和らげている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>友人・知人の訪問はあるが近隣住民は行事の時など訪ねて来てくれる。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	少しずつであるが良き理解者が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	理念の一つである「プライドを守ります」を念頭に置き業務を行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	全ての利用者様が満足しているとは言いがたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	全ての家族が満足しているとは言いがたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当法人には、4ヶ所のグループホームがあり各ホームと利用者様の交流がある。畑の種まき・草取り・演奏会・夏祭り・運動会・ひな祭り・ピクニックなど色々行き来を行っている。時には近隣の他の施設との交流も行っている。毎年行っている餅つきは、近隣町会が中心になって行って頂いている。また、利用者様も町会の行事に参加し楽しまれている。